

育成を目指す資質・能力を踏まえた 「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要領の開発 — 特別支援学校の小学部におけるアクション・リサーチから —

田淵健*, 佐々木全・東信之**, 阿部大樹・田口ひろみ・中村くみ子・岩崎正紀・藤谷憲司***

上濱龍也****, 最上一郎*****, 名古屋恒彦*****

*岩手大学大学院教育学研究科教職実践専攻, **岩手大学大学院教育学研究科

岩手大学教育学部附属特別支援学校, *岩手大学教育学部

*****岩手県立盛岡みたけ支援学校, *****植草学園大学発達教育学部

(令和2年3月4日受理)

1. はじめに

令和2年度より小学部から順次実施となる特別支援学校学習指導要領では、知的障害教育における指導の形態「各教科等を合わせた指導」の授業において、各教科等で明示された「育成を目指す資質・能力」を内容として取り扱うことが強調された。このことは、従前の「各教科等を合わせた指導」において各教科等の内容の取扱いや学習評価が不明確であるなどの指摘¹⁾に対する改善策といえる。

従前であっても、今後であっても「各教科等を合わせた指導」の授業づくりは、授業者にとっては懸案であり、各教科等の内容の取扱いを明確にし、かつ、授業の目標やそれに連なる児童生徒一人一人に対する目標の立案が円滑に促進される授業づくりの要領が求められる。

これに応えるべく、本研究では「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要領を開発することを目的とする。

2. 方法

「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要領(以下、「授業づくりの要領」と記す)の開発のために、岩手大学教育学部附属特別支援学校において、研究者と実践者たる特別支援学校教員が実践を協働する。これは、「アクション・リサーチ」と言える。アクション・リサーチとは、研究者自身が調査対象となっている人びとと連携して問題の解決に関与し、協同で実践を創造し、その解決の過程を探究する方法²⁾であり、本研究では開発する「授業づくりの要領」が、実際の活用を志向する上で最適な方法であると考えられた。

対象とするのは、小学部A学級(児童6名)であり、授業者(教員3名)と研究者(1名)が協働した。

実施期間は、20XX年8月～20XX+1年3月の約8ヶ月間であり、対象授業は「各教科等を合わせた指導」の代表的な指導の形態である生活単元学習とした。

なお、研究協力者に対しては、本研究の目的や公開などに関して十分な説明をし、承諾を得た。

3. 結果と考察

(1) 「授業づくりの要領」の基本構想

先行研究に基づき、「各教科等を合わせた指導」における「授業づくりの要領」の基本構想を設定したこの内容は以下の通りである。

- ア 各教科等の目標を達成することを踏まえた計画であること³⁾。
- イ 「各教科等を合わせた指導」を志向する授業者が、確信をもって授業づくりを進められるよう、手順が明確であること⁴⁾。

ウ 教科等横断的視点(学校教育目標等)で単元を通してどのような資質・能力を育成したいのかを明らかにし、そこに必然する各教科等で育成される資質・能力(教科等の目標・内容)を個別に具体化し、実践を行うとの流れがイメージできるツールが必要であること⁵⁾。

エ 学習指導要領に基づく「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要点を踏まえた手順であること⁶⁾。要点とは、以下の6点である。すなわち、①知的障害のある児童生徒の学習上の特性を踏まえる、②知的障害者である児童生徒の教育的対応の基本を踏まえる、③子どもの生活に即した具体的活動を構想する、④各教科等を合わせた指導に関する各留意事項を踏まえ、具体的な活動中に含まれる各教科等で育成を目指す資質・能力を個別の教育的ニーズに応じて明確にし、単元における個別の指導計画を作成し実践する、⑤各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を実施する、⑥カリキュラム・マネジメントの視点に基づいたPDC Aサイクルで授業改善を行う、である。

(2) 「授業づくり要領」の考案

「授業づくりの要領」の基本構想を踏まえ、授業づくりの手続き及び具体的作業を一覧した「授業づくりの要領(試案)」を考案した。これを表1に示す。

この内容は、学習指導要領解説各教科等編における「知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本」を踏まえることを前提とし、独自に作成した「単元構想シート(試案)」と称するツールを用いて単元の全体計画並びに学校教育目標や各教科等における資質・能力との関連を授業者が意識できるようにした。その上で、児童生徒一人一人の「単元における個別の指導計画(試案)」を作成し、個別の目標・支援の手立てを講じて実践するという手順である。

表1 「授業づくりの要領(試案)」

手続き		具体的作業
①	知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本を踏まえる	学習指導要領解説の読解
②	単元における目標の設定(学校教育目標を踏まえた資質・能力の育成)	「単元構想シート」の作成
③	単元における一人一人の活動の設定	
④	単元の期間の設定	
⑤	各教科等との関連の確認(各教科等の目標を踏まえた資質・能力の育成)	
⑥	個別の目標と手立ての検討	「単元における個別の指導計画」の作成
⑦	授業実践	準備, 実践, 改善
⑧	評価	日々の記録, 叙述型の評価

(3) 「授業づくりの要領」の試行

「授業づくりの要領(試案)」を用いた実践を行った。生活単元学習では、多様なテーマや活動内容が構想されるため、活動内容の異なる3つの単元を対象とした。この概要を表2に示した。

以下では「学習発表会で劇『浦島太郎』を発表しよう」を例に挙げ、その経過を記す。

まず、「授業づくりの要領(試案)」の手続き①に従い、学習指導要領解説における知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本を授業者間で確認した。次に、手続き②～⑤に従い「単元構想シート(試案)」を用い、単元の目標、期間の設定、個々の活動と各教科等における資質・能力との関連について、学習指導要領に示

表2 対象とした授業の概略

	単元名	概要
1	「お蕎麦屋さんを開店しよう」	教室を店舗に見立て、蕎麦づくりや接客、会食を行う。
2	「学習発表会で劇『浦島太郎』を発表しよう」	ステージ発表に向けて台詞や動きの練習、道具づくりなどを行う。
3	「クリスマス会をしよう」	小学部全体で行うクリスマス会に向けて、高学年としての運営準備を行う。

単元構想シート (案)

指導の形態	生活単元学習		単元名	「学習発表会で劇『うらしま太郎』を発表しよう！」		対象	小学部 〇〇組 〇〇年生 〇名		担当	〇〇		
単元の目標	【単元で目指す主体的な姿】 1 それぞれの役や製作活動において、自分の力を発揮し、高めながら、意欲的に取り組む。 2 みんなで力を合わせてあにわ祭のステージ発表を成功させ、達成感や満足感を味わう。											
期間・時数	10月31日 (1時間)		11月1日～11月2日 (2時間)		11月5日～11月7日 (5時間)		11月8日～11月16日 (24時間)		11月20日～21日 (2時間)			
小単元名または活動名	「学部オリエンテーション」		「〇〇組オリエンテーション」		「発表練習」「小道具、大道具づくり」		「ステージ練習」「大道具、小道具づくり」		「振り返り」			
	主な学習活動	育みが期待される 各教科等の資質・能力、 道徳、自立活動の目標	主な学習活動	育みが期待される 各教科等の資質・能力、 道徳、自立活動の目標	主な学習活動	育みが期待される 各教科等の資質・能力、 道徳、自立活動の目標	主な学習活動	育みが期待される 各教科等の資質・能力、 道徳、自立活動の目標	主な学習活動	育みが期待される 各教科等の資質・能力、 道徳、自立活動の目標	主な学習活動	育みが期待される 各教科等の資質・能力、 道徳、自立活動の目標
Aさん	<ul style="list-style-type: none"> 教師の説明を聞き、劇の内容を知る。 カレンダーを見て、日程を知る。 自分なりの意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語1 生活1, 算数1 生活1, 国語1, 自活6 	<ul style="list-style-type: none"> 太鼓の演奏をビデオで視聴する。 太鼓を叩いてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽1 音楽1 	<ul style="list-style-type: none"> 織姫の衣装づくり(飾り貼り付け) 浦島太郎の絵本の読み聞かせを聞く。 太鼓の演奏をビデオで視聴する。 浦島太郎の衣装づくり(スランテープを裂く) 太鼓を叩く。 回転しながら踊る。 小道具(玉手箱)づくり(糊付け) 	<ul style="list-style-type: none"> 図工1 国語1 音楽1 図工1 音楽1 音楽1 図工1 	<ul style="list-style-type: none"> 曲に合わせて太鼓を叩く。 巻物を引っ張って文字を見せる。 曲に合わせて踊る(くるくる回転する) 台詞「あいます止語」。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽1 生活1 音楽1, 体育1 国語2 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちのステージ発表のビデオを見る。 個人新聞を作る。(写真をのりで貼る。文字をなぞり書きする。) 	<ul style="list-style-type: none"> 国語1, 音楽1 図工1, 国語1 		
Bさん	<ul style="list-style-type: none"> 教師の説明を聞き、劇の内容を知る。 カレンダーを見て、日程を知る。 自分なりの意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語1 生活1 生活1, 国語1, 自活6 	<ul style="list-style-type: none"> 太鼓の演奏をビデオで視聴する。 太鼓を叩いてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽1 音楽1 	<ul style="list-style-type: none"> 亀の衣装づくり(塗装) 浦島太郎の絵本の読み聞かせを聞く。 太鼓の演奏をビデオで視聴する。 浦島太郎の衣装づくり(スランテープを裂く) 太鼓を叩く 毛筆でのなぞり書き 	<ul style="list-style-type: none"> 図工1 国語1 音楽1 図工1 音楽1 国語1 	<ul style="list-style-type: none"> 亀の役として、ステージでうづまいて待つ。 事前にナレーションの台詞を話して録音する。 音楽に合わせて太鼓を叩く。 移動しながら友達と一緒に太鼓を叩く。 笛の合図に合わせてしゃがんだり立ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育1 国語3, 自活6 音楽1 音楽1, 体育1, 道徳B 体育1 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちのステージ発表のビデオを見る。 個人新聞を作る。(写真をはさみで切り、のりで貼る。文字を書く。) 	<ul style="list-style-type: none"> 国語1, 音楽1 図工1, 国語1 		
Cさん	<ul style="list-style-type: none"> 教師の説明を聞き、劇の内容を知る。 カレンダーを見て、日程を知る。 自分なりの意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語1 生活1 生活1, 国語1, 自活6 	<ul style="list-style-type: none"> 太鼓の演奏をビデオで視聴する。 太鼓を叩いてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽1 音楽1 	<ul style="list-style-type: none"> 亀の衣装づくり(塗装) 浦島太郎の絵本の読み聞かせを聞く。 太鼓の演奏をビデオで視聴する。 浦島太郎の衣装づくり(スランテープを裂く) 太鼓を叩く 小道具(玉手箱)づくり(糊付け) 毛筆でのなぞり書き 	<ul style="list-style-type: none"> 図工1 国語1 音楽1 図工1 音楽1 図工1 国語1 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて太鼓を叩く。 移動しながら友達と一緒に太鼓を叩く。 笛の合図に合わせてしゃがんだり立ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽1 音楽1, 道徳B 体育1 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちのステージ発表のビデオを見る。 個人新聞を作る。(写真をのりで貼る。文字を書く。) 	<ul style="list-style-type: none"> 国語1, 音楽1 図工1, 音楽1 		
Dさん	<ul style="list-style-type: none"> 教師の説明を聞き、劇の内容を知る。 カレンダーを見て、日程を知る。 自分なりの意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語1 生活1 生活1, 国語1, 自活6 	<ul style="list-style-type: none"> 太鼓の演奏をビデオで視聴する。 太鼓を叩いてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽1 音楽1 	<ul style="list-style-type: none"> 浦島太郎の衣装づくり(ステンシル) 浦島太郎の絵本の読み聞かせを聞く。 太鼓の演奏をビデオで視聴する。 ひらがなで名前を書かれた箱を順番に積み上げる 	<ul style="list-style-type: none"> 図工1 国語1 音楽1, 国語1, 算数1 	<ul style="list-style-type: none"> ひらがなで名前を書かれた箱を順番に積み上げ、テーブルに載せる。 教師の声がけに合わせて、「【】」の文字を指さす。 竹をばちで叩いて演奏する。 玉手箱のひもを引っ張る。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語1, 算数1 国語1 音楽1 体育1 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちのステージ発表のビデオを見る。 個人新聞を作る。(写真をのりで貼る。文字の書かれたシールを選んで貼る。) 	<ul style="list-style-type: none"> 国語1, 音楽1 図工1, 国語1 		
Eさん	<ul style="list-style-type: none"> 教師の説明を聞き、劇の内容を知る。 カレンダーを見て、日程を知る。 自分なりの意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語1 生活1 生活1, 国語1, 自活6 	<ul style="list-style-type: none"> 太鼓の演奏をビデオで視聴する。 太鼓を叩いてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽1 音楽1 	<ul style="list-style-type: none"> 浦島太郎の衣装づくり(ステンシル) 浦島太郎の絵本の読み聞かせを聞く。 太鼓の演奏をビデオで視聴する。 ひらがなで名前を書かれた箱を順番に積み上げる 	<ul style="list-style-type: none"> 図工1 国語1 音楽1 国語1, 算数1 	<ul style="list-style-type: none"> 台詞「【】」「かめさん、いこう」を話す。 ひらがなで名前を書かれた箱を順番に積み上げ、テーブルに載せる。 竹をばちで叩いて演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語2, 自活6 国語1, 算数1 音楽1 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちのステージ発表のビデオを見る。 個人新聞を作る。(写真をのりで貼る。文字をなぞり書きする) 	<ul style="list-style-type: none"> 国語1, 音楽1 図工1, 音楽1 		
Fさん	<ul style="list-style-type: none"> 教師の説明を聞き、劇の内容を知る。 カレンダーを見て、日程を知る。 自分なりの意見を述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語1 生活1 生活1, 国語1, 自活6 	<ul style="list-style-type: none"> 太鼓の演奏をビデオで視聴する。 太鼓を叩いてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽1 音楽1 	<ul style="list-style-type: none"> 浦島太郎の衣装づくり(ステンシル) 浦島太郎の絵本の読み聞かせを聞く。 太鼓の演奏をビデオで視聴する。 ひらがなで名前を書かれた箱を順番に積み上げる 	<ul style="list-style-type: none"> 図工1 国語1 音楽1 国語1, 算数1, 	<ul style="list-style-type: none"> ひらがなで名前を書かれた箱を順番に積み上げ、テーブルに載せる。 竹をばちで叩いて演奏する。 台詞「【】」「さびしいな」「ありがたう」「あいまいな」を話す。 玉手箱のひもを引っ張る。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語1, 算数1 音楽1 国語2, 自活6 体育1 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちのステージ発表のビデオを見る。 個人新聞を作る。(写真をのりで貼る。文字の書かれたシールを貼る) 	<ul style="list-style-type: none"> 国語1, 音楽1 図工1, 音楽1 		

図1 「単元構想シート (試案)」の使用例

単元における個別の指導計画（案）

生徒氏名 (Bさん) 記入者 ()
 指導の形態 (生活単元学習) 単元名 (学習発表会で劇「うらしま太郎」を発表しよう)

時期	小単元名・主な活動	目標 (願う姿)	育成が期待される各教科等における資質・能力	支援の手立て	評価 (実現された姿)	資質・能力の育みとしての評価													
						生活	国語	算数	音楽	図工	体育	外国	道徳	自活	特活				
10/31 (1)	学部オリエンテーション	● 教師の説明を聞き、劇のタイトル、自分の役について知ってほしい。	● 国語 43	● 絵や映像を用いて、劇の内容を視覚的にわかるようにする。	● 自分の配役 (亀) について確認するように何度も教師に「かめ」と話していた。														
11/1 ～ 11/2 (2)	つくし組オリエンテーション	● 太鼓の演奏に興味をもち、自ら叩いてほしい。	● 音楽 35, 63	● 教師と一緒に叩いたり、演奏して見せたりし、叩き方を具体的に伝えるようにする。小さな音でも良いので、自分ではちをもって音を出せた場合に共感的な声かけをする。	● 「ドラム TAO」の演奏ビデオに興味をもって鑑賞していた。 ● やさしい叩き方ではあったが、和太鼓に興味をもち、自分ではちをもって音を鳴らすことができた。														
11/5 ～ 11/7 (5)	「発表練習」「小道具、大道具づくり」	● うらしま太郎の衣装づくりにおいて、丁寧に塗装をしたり、すずらんテープを自分で結び、できるだけ細く、たくさん裂いてほしい。	● 図工 2	● 教師が実際にやりながら結び方を伝える。 ● 教室のスペースを広く使い、十分な活動量を用意する。	● 衣装の亀の甲羅作りでは、段ボールの端まで隙間無く色を塗ったり、模様を貼り付けたりすることができた。 ● すずらんテープを自分で次々結ぶことができた。幅の太いものを探し出して、細く裂くことができていた。														
11/8 ～ 11/16 (24)	「ステージ練習」「大道具、小道具づくり」※11/17あこわ祭	● 劇中に流れるナレーションを、ゆっくり、はっきりと伝わるように話して欲しい。 ● 友達と交互に一つの太鼓を叩いたり、合図に合わせて移動したりしながら躍動感のある演奏をしてほしい。 ● しゃがんでポーズを取ったり、移動したりといった動きの流れを覚えて、一人で行動して欲しい。	● 国語 49, 自活 24 ● 音楽 35, 37, 道徳 B, 33, 体育 56, 61	● 教師と二人きりの静かな環境で、集中してナレーションの台詞を話せるようにする。教師が実際に大きな声で話し、発声の模範となるようにする。 ● 一つの太鼓を交互に演奏したり、大きな動きで演奏することの良さや面白さが感じられるよう、実際のプロの演奏ビデオを鑑賞する。 ● 練習時には教師と一緒に演奏しながら動作を伝えたり、声かけをしたりする。 ● 立ち位置等、分かりやすくするための印をステージ上につけておく。	● 台詞を読みやすいように変えたところ、集中して録音に臨むことができた。マイクに向かって、できるだけ大きな声を出そうとしていた。聴き取れるようにははっきりとした声で話すことができた。 ● 腕を頭上まで振り上げるなど、力強い大きな動きで太鼓を叩くことができた。友達動きに合わせて、交互に叩くことができていた。自分から進んで友達分のばちを配ったり回収したりしていた。 ● 移動したりしゃがんだりといった動きの流れを理解して一人で行動することができていた。														
11/20 ～ 11/21 (2)	振り返り	● 個人新聞づくりにおいて、写真を線に沿って切り、丁寧に糊で貼りつけてほしい。 ● 教師と一緒に考えながら平仮名でコメントを書いて欲しい。	● 図工 2 ● 国語 44, 56	● サイズの合ったはさみなど、使いやすい道具を用意する。 ● 必要に応じて、切り方や糊付けの仕方のアドバイスや称赞の声掛けを行う。 ● 写真に写っている活動に関する話題をしながらコメントを考えられるようにする。	● 丁寧にまっすぐ写真を切ることができ、糊付けも一人はみ出さないようにできた。 ● 誤字もあったが、「がんばった」など、教師の声かけを手掛かりにしながらコメントを考え、平仮名で書くことができた。														

図2 「単元における個別の指導計画（試案）」の使用例

されている教科等の目標の段階から、該当すると考えられるものを協議の上、選択した。この使用例を図1に示した。

さらに、手続き⑥に従い「単元における個別の指導計画（試案）」を用い、個別の目標の設定と手立ての検討を行なった。授業者が設定した個別の目標に対し、関連すると考えられる各教科等の目標・内容について協議の上、選択し記した。この使用例を図2に示した。なお、この際、学習指導要領解説総則編巻末の「目標・内容の一覧」における、段階ごとの目標、内容に対し、独自に番号を付し、これを選択することにした。また、教科等ごとにA3用紙に印刷して冊子にし、授業者に配付した。授業実践の後には評価を追記した。

（4）「授業づくりの要領」の評価

「授業づくりの要領」の評価に際しては、授業者に対して質問紙調査を実施した。質問項目は、以下の2点である。すなわち、①「単元における個別の指導計画（試案）」において評価として叙述した内容から、各教科等の目標・内容に関する資質・能力の育成を読み取れるかについて、4件法（4＝資質・能力が育まれたと評価できる、3＝やや資質・能力が育まれたと評価できる、2＝あまり資質・能力が育まれたとは評価できない、1＝資質・能力が育まれたとは評価できない）をもって回答を求めた。なお、客観性を担保するため、本研究に関与しない大学院生1名にも試行内容を詳説し回答を求めた。②感想や改善すべき点の指摘などについて自由記述として回答を求めた。

①の結果、単元名「お蕎麦屋さんを開店しよう」の授業では平均が3.4ポイント、単元名「学習発表会で劇『浦島太郎』を発表しよう」の授業では平均が3.4ポイント、単元名「クリスマス会をしよう」の授業では平均が3.5ポイント、となった。このことから、子どもの生活に即した具体的活動が中心となる「各教科等を合わせた指導」においても、各教科等において育成を目

指す資質・能力が、必然的な結果として育成され得ると考えられた。

②の結果、8件の回答が得られた。この内容と、それに対応する改善策を表3に一覧した。改善策は、授業者と研究者による協議をもって考案されたものである。

表3 回答内容とそれに基づく改善策

回答内容	改善策
「単元構想シート」について、目標を観点別に分けて表記しても良いのではないかと。	単元構想シートに教科等横断的な視点に立った資質・能力を3つに分類する観点別の目標の記入欄を設けることとした。
「単元構想シート」「単元における個別の指導計画」両方について、主な学習活動が教科の何段階に合致するのを探るのが大変。効率的に作成できるシステムがあると良い。	各教科等の目標の一覧をデータ化し、単元構想シート、単元における個別の指導計画共にパソコンでの入力を可能とし、効率化を図ることとした。
「単元構想シート」を活用することで、単元で何をねらっていくかをイメージできる。	授業づくりの要領に留意点を示すこととした。また、手順の根拠として学習指導要領に基づく「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要点を示すこととした。
単元を振り返る際に、個への評価だけでなく、単元としてどうだったかを見直すこともできる。	
単元づくりをする中で各教科との関連についても押さえているので理にかなっている。	
「単元における個別の指導計画」に関して、評価の文言から各教科等の資質・能力が育成されたと感じられた。	単元における個別の指導計画における評価は発揮された姿の叙述のみとした。
目標の欄に書かれている教科名、領域名の他に、自立活動や、他の教科・領域の資質・能力も育成されているように感じられた。	各教科等の目標・内容に該当するものが無いと感じられても、特別活動の目標や道徳の内容との関連が考えられることや、単元における目標として、教科等横断的な視点で育成を目指す資質・能力の育みとして評価することも可能であることの共通理解を図った。その旨を「視点・留意点」として授業づくりの要領に記載することとした。
(クリスマス会単元において)各教科等の目標・内容(資質・能力)には無いが、「サンタさんが登場すると嬉しそうに声をあげていた。」「自分の力で時間いっぱい作成していた。」「進んで手を挙げ、サンタさんの手品の手伝いをする事ができた。」等、資質・能力の育みとして評価したい姿があった。	

これによれば、回答内容の例として『「単元構想シート」について、目標を観点別に分けて表記しても良いのではないか」との意見があり、これについて「単元構想シート」に教科等横断的な視点に立った資質・能力を3つに分類する観点別の目標の記入欄を設けることをもって改善策とした。また、「効率的に作成できるシステムがあると良い」との意見があり、これについて「単元構想シート」「単元における個別の指導計画」をデジタル化し、Microsoft Excel®による操作を可能にすることをもって改善策とした。

以上を踏まえ「単元構想シートを用いた授業づくりの要領」を開発した。これを表5に示した。「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要点と手順を対応させ、手順の遂行における視点・留意点と、関連する資料・ツールを一元的に記した。

今後「単元構想シートを用いた授業づくりの要領」について、これが活用されることを期待するとともに、活用事例をもって実践的に検証することが必要である。

文 献

- 1) 文部科学省(平成28年4月13日特別支援教育部会第7回配布資料)特別支援教育部会(第6回)における主な意見(未定稿). <http://www.mext.go.jp/bmenu/shingi/chukyo/chukyo3/063/siryo/attach/1370127.htm> (2019.11.25 閲覧)
- 2) 佐藤学(2000):授業を変える 学校が変わる 総合学習からカリキュラムの創造へ. 小学館.
- 3) 田淵健・佐々木全・東信之・名古屋恒彦・最上一郎(2019):学習指導要領に基づく「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要点. 岩手大学大学院教育学研究科研究年報, 4, 205-211.
- 4) 田淵健・佐々木全・東信之(2019):「各教科等を合わせた指導」を志向する知的障害特別支援学校教員の授業づくりに関する意識. 生活中心教育研究, 34, pp. 65-74.
- 5) 田淵健・佐々木全・東信之・名古屋恒彦・最上一郎(2019):知的障害特別支援学校における「育成を目指す資質・能力」と「各教科等を合わせた指導」の関連—授業づくりの要領の探究として—. 岩手大学大学院教育学研究科研究年報, 4, 213-222.
- 6) 前掲文献3)

表5 「単元構想シートを用いた授業づくりの要領」

要点	手順(授業者の作業)	視点・留意点等	資料・ツール
1 知的障害のある児童生徒の学習上の特性を踏まえる	① 理解または確認	●「抽象的な内容の指導よりも、実際的な生活場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるようにする指導が効果的」等を踏まえる。	『特別支援学校学習指導要領解説総則等編』
2 知的障害者である児童生徒の教育的対応の基本を踏まえる	② 理解または確認	●「生活に結びついた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際的な状況下で指導する」等を踏まえる。	『特別支援学校学習指導要領解説総則等編』
3 子ども(知的障害者である児童生徒)の生活に即した具体的な活動を構想する	③ 単元の全体計画の作成 (テーマ※単元名, 目標※資質・能力, 日程, 活動内容, 分担等を単元構想シートに記入)	●子どもの実態を踏まえる。(前単元の様子等から) ●学校教育目標, 学部教育目標において示されている育成を目指す資質・能力を踏まえる。 ●年度はじめに作成した個別の指導計画の目標を踏まえる。 ●各教科等を合わせた指導に関する各留意事項を踏まえる。	『特別支援学校学習指導要領解説各教科等編』 『学校経営計画』 『個別の指導計画』 『単元構想シート』
	④ 各教科等の目標・内容(資質・能力)との関連をチェック(構想シート)	●単元全体を通して各教科等の資質・能力がどのように関連するか全体像をイメージする ●子どもの実態を踏まえる。(前単元の様子等から) ●学校教育目標, 学部教育目標において示されている育成を目指す資質・能力を踏まえる。 ●年度はじめに作成した個別の指導計画の目標を踏まえる。 ●授業者間による共通理解(目標と手立て)を図る	『特別支援学校学習指導要領解説』 『単元構想シート』
4 各教科等を合わせた指導に関する各留意事項を踏まえ, 具体的な活動中に含まれる各教科等で育成を目指す資質・能力を明確にし, 各教科等を合わせた指導を計画・実践する	⑤ 単元における個別の指導計画の作成(個別の目標, 支援の計画)	●個別の教育的ニーズに応じた, 実際の生活上必要となる各教科の目標と内容の配列であることを確認する。 ●個別の目標に各教科等の資質・能力の育成が踏まえられているかを確認する。	『個別の指導計画』 『単元における個別の指導計画』
	⑥ 各教科等の目標・内容との関連の確認(単元における個別の指導計画にチェック)	●授業者間による日々の授業改善(手立ての工夫等)を行う。	『単元における個別の指導計画』
	⑦ 単元構想シート, 単元における個別の指導計画に基づく授業実践	●授業者間による共通理解の場を設ける。 ●関連する各教科の目標・内容を踏まえた記述となっているかを確認する。 ●必要に応じて各教科等に別けて評価を行う。	『単元における個別の指導計画』
5 各教科の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行う	⑧ 単元における個別の指導計画における評価の記述	●単元の内容, 配列等, 学習指導要領解説における留意点を視点として授業評価を行う。 ●他の教科等との関連から教育課程の在り方を検討する。	『単元構想シート』 『単元における個別の指導計画』 『年間指導計画』 『教育課程』 『学校教育目標』
6 カリキュラム・マネジメントの視点に基づいたPDCAサイクルで授業改善を行う	⑨ 授業についての評価, 改善の話し合い(単元終了後, 学期末, 年度末等)		